

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月30日現在

機関番号：34307

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21320127

研究課題名（和文） 中近世移行期における賀茂別雷神社および京都地域の政治的・構造的  
分析研究研究課題名（英文） The Study of the Kamo Wake Ikazuchi Shrine Documents and Kyoto  
Region From Medieval to Early Modern

研究代表者

野田 泰三（NODA TAIZO）

京都光華女子大学・人文学部・教授

研究者番号：90335183

研究成果の概要（和文）：近年、多数の新出文書が発見された賀茂別雷神社文書について、今後学界での利用に供すべく、算用状類を中心にデジタル撮影を行った。それらをもとに、織田・豊臣政権による京都支配や天正検地の実態について新たな知見を得た。また算用状や土地台帳類をもとに、賀茂社が膝下所領である六郷に課した種々の税目の賦課実態・用途を分析し、社領の支配構造とその変質について概要を解明した。

研究成果の概要（英文）：Digital photography was performed on the Kamo Wake Ikazuchi Shrine documents, which include many newly-discovered historical records. Through analysis of the documents, much new knowledge was acquired about Kyoto during the rule of the Oda and Toyotomi Administration, and of the Tensyo land survey. In addition, through analysis of financial record books showing income and expenditure, and of land ledgers, an outline of the rule of the Kamo Shrine estate and the process of its decline was elucidated.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
2010年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
2011年度	1,900,000	570,000	2,470,000
2012年度	2,100,000	630,000	2,730,000
年度			
総計	11,600,000	3,480,000	15,080,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：中近世移行期、賀茂別雷神社文書、賀茂六郷、算用状

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 賀茂別雷神社文書は、平安期以降の文書・記録類を伝え、京都近郊にあってとりわけ戦国期から近世初頭の文書を大量に含んでいることから、賀茂社固有の氏人組織や往

来田制度、膝下の賀茂六郷や地方荘園などの社領研究、また京都地域の政治史研究を行う上での重要な史料群として注目されてきた。明治以降、賀茂社をはじめ、東京大学史料編纂所、京都国立博物館などによって数度の整

理・調査がなされ、その一部は写真帳・影写本などの形で利用に供されており、須磨千穎による氏人惣中や賀茂六郷の復元的研究といった優れた成果も生み出されている。しかし、活字化が進まず、史料群の全体像が把握されていないため、賀茂社文書がこれまで研究に十分活用されてきたとは言い難い。

(2)しかるに近年、1997～2002 年度にかけて京都府教育委員会が行った悉皆調査により、新たに 3000 点を超える古文書・古記録が発見された。その成果は同教育委員会編『賀茂別雷神社文書目録』（2003 年）にまとめられ、ここに 14000 点に及ぶ同文書の概要をようやく知ることができるようになった。

新出史料を含めた賀茂社文書の全容が示されたうへは、一日も早い史料の公開がまたれるところであるが、諸般の事情により、早期の公開は望みがたいのが現状である。

申請者は京都府調査に参加し、その後、賀茂社の許可を得て新出史料を中心に若干の文書を紹介・分析した経緯もあって（2003～2004 年度科学研究費補助金・基盤研究C「戦国期三好氏権力の基礎的研究」）、貴重な史料群を研究者の利用に供すべく、賀茂社の協力を得て、本研究を計画した。

## 2. 研究の目的

(1)中近世移行期研究にとって貴重な素材である賀茂社文書をデジタル撮影して、本研究の分析材料とするとともに、研究終了後は、東京大学史料編纂所等で公開し、広く一般研究者の利用に供すること。

(2)そのうえで、戦国期から近世初頭を主たる対象時期とし、3つの研究テーマを設定する。

### ①賀茂社社中・氏人組織の内部構造および賀茂社祭祀・神事の研究

・賀茂社固有の氏人組織とそれを基盤とした社中諸組織の構造を復元的に解明する。

・当該期における賀茂社の個々の祭祀・神事の実態と総体としての賀茂社祭祀の構造、およびその変容の様相を、政治権力や地域社会との関係性に配慮しつつ分析する。

### ②賀茂六郷の在地構造の研究

・膝下所領である賀茂六郷について、須磨千穎による研究を前提に、景観復元の精緻化を図る。

・賀茂社・氏人による往来田経営のシステムや賀茂社による地下支配の在り方など、六郷

における土地所有構造や在地支配構造を具体的に復元分析する。

### ③当該期京都地域政治史の研究

・各政権による賀茂社・京都支配の具体相を跡づけ、京都地域をフィールドとして中世的支配体制から近世的統一国家への変容の過程を解明する。

・当該期政治史研究上重要な新出史料を翻刻・紹介する。

## 3. 研究の方法

前述した3テーマの研究を進める具体的な方法・手順は以下の通り。

### (1)賀茂社社中・氏人組織の内部構造および賀茂社祭祀・神事の研究について

①氏人中置文や諸算用状の署判から、氏人組織の構成や番毎の構成員、諸種の役職者が判明する。これらをもとに、各時期の社中・氏人組織の構成と変遷、氏人個々の実名・通称・官途・役職およびその変遷、氏人諸家の系譜などの基礎データを作成する。

②祭祀・神事の儀式次第や注釈書、日次記等の分析により、当該期における賀茂社祭祀・神事の実態と中世から近世における変容の過程を、政治史・社会経済史の視点も踏まえながら考察する。

そのうえで、祭祀・神事が賀茂社・氏人集団の内部および六郷地域の在地支配上果たした社会的機能・意義を明らかにする。

### (2)賀茂六郷の在地構造研究について

①賀茂六郷について、関連する売券・譲状・指出などから得られる地字名、面積、斗代、所有権・耕作権など諸権利保持者等の情報を田地毎に集積し、前掲須磨による復元地図上に落とし、地目や土地条件、諸権利関係など土地所有の実態を具体的に復元考察する。大徳寺文書に含まれる多数の賀茂社領関係史料もあわせて分析の対象とする。

②氏人による往来田経営、氏人中と地下中（百姓）との関係など、賀茂六郷の在地構造と賀茂社による支配の在り方について考察する。その際、宗教領主としての賀茂社支配の特質に着目し、他地域・他寺社領との比較検討も行いたい。

③賀茂社文書以外にも、東京大学史料編纂所の所蔵する賀茂社関係史料（競馬方等算用状、賀茂社社司日記ほか）の原本調査や、史料編纂所で撮影した賀茂社文書・大徳寺文書の調査も実施する。

(3)当該期京都地域政治史の研究について当該記政治史研究上重要な未紹介史料の翻刻・紹介を行うとともに、戦国期から近世初頭に至る各政権の京都支配の様相と特質を解明する。ひいては賀茂社ならびに京都地域の当該期における変容の過程を構造的に分析・考察する。

#### 4. 研究成果

(1)職中算用状の分析による中近世移行期の賀茂社財政の実態の解明

①永禄年間後半～天正年間前半にかけて賀茂社財政は悪化し、太閤検地により社領が減少する天正年間後半以降には、財政はかえって安定化する。これは氏人が留保する内部資本を惣中が借用することによって実現された。

②財政状況が悪化する元亀・天正年間には非月例の算用状（錯乱方、乱入方、御音信方算用状）が多数作成されており、社領・境内の安全保障のため織田政権との活発な交渉がなされていることが判明する。

(2)賀茂六郷に対する収取制度と支配構造の解明

諸種算用状や土地台帳・売券類から、賀茂社は膝下所領である六郷に対して、神事用途別、人別、社寺別の本役公事と御結鎮銭を賦課していることが判明する。その賦課の在り方と特質の分析を通して、戦国期に至り本役収取システムが破綻をきたすなかで賀茂社は収取の重点を前者から後者へと移し、それにもなつて土地台帳の様式・内容も変化することが明らかになった。

(3)多数の新出史料を含む賀茂社文書画像データの集積（今後公開予定）

(4)天文～天正年間の氏人データベース（諱、官途・名乗り、役職、花押画像）の作成

(5)職中算用状、西賀茂検地帳（イエール大学所蔵）など賀茂社文書、賀茂社関連文書の翻刻・紹介

(6)東京大学史料編纂所撮影写真帳と京都府教育委員会編『賀茂別雷神社文書目録』との対照表の作成

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計7件）

- ① 宇野日出生「〈総論〉賀茂信仰と上・下賀茂社」（悠久131号、査読有、2013年刊行予定）
- ② 宇野日出生「勅祭・賀茂祭」（悠久132号、査読有、2013年刊行予定）
- ③ 高橋敏子「学び直す日本史の常識：荘園のあり方は、どの地域でも全く同じだったのでしょうか？」（日本歴史764号、査読有、p26-29、2012年）
- ④ 藤田恒春「上賀茂神社神主森尚久の『天正十九年續葉記』」（織豊期研究13号、査読有、p67-77、2011年）
- ⑤ 藤田恒春「中近世移行期の上賀茂神社と氏人 置文の時代の終焉」（古文書通信88号（NHK学園）、査読無、p9-16、2011年）
- ⑥ 保立道久・江原敏春・高島昌彦「中世大徳寺文書に見る和紙の表裏と書状の関係」（日本史研究579号、査読有、p57-72、2010年）
- ⑦ 宇野日出生「賀茂別雷神社〈葵使〉関係文書の翻刻と解説（下）」（京都産業大学日本文化研究所紀要14号、査読有、p207-221、2009年）

〔学会発表〕（計7件）

- ① 志賀節子「賀茂社史料の分析結果と課題－岩佐家文書との比較から」（2012年12月24日、本科研研究会、京都光華女子大学）
- ② 宇野日出生「葵使 権威と儀礼」（2012年12月2日、第22回儀礼文化学会 関西支部秋季大会、松尾大社）
- ③ 金子 拓「誠仁親王の立場」（2012年11月23日、織豊期研究会大会、三重大学）
- ④ 高橋敏子「年貢の来納と荘園の領有」（2012年6月5日、シンポジウム「荘園制を再考する：中世日本の社会と経済」、University of Southern California, LA）
- ⑤ 下村信博「元亀三年賀茂社境内指出と音信（礼物）」（2011年9月9日、本科研研究会、京都労働者総合会館）
- ⑥ 金子 拓「賀茂別雷神社算用状の基礎的考察」（2011年9月8日、本科研研究会、賀茂別雷神社）
- ⑦ 宇野日出生「葵使について」（2011年9月8日、本科研研究会、賀茂別雷神社）

〔図書〕(計6件)

- ① 野田泰三編、自費出版、研究成果報告書『中近世移行期における賀茂別雷神社および京都地域の政治的・構造的分析研究』、2013年、120p
- ② 東京大学史料編纂所編(金子 拓担当)、東京大学出版会、『大日本史料 第10編之27』、2011年、516p
- ③ 金子 拓、講談社、『記憶の歴史学 史料に見る戦国』、2011年、314p
- ④ 藤井讓治編、思文閣出版、『織豊期主要人物居所集成』、2011年、460p
- ⑤ 藤井讓治、吉川弘文館、『日本近世の歴史1 天下人の時代』、2011年、266p
- ⑥ 藤井讓治、講談社、『天皇の歴史5 天皇と天下人』、2011年、366p

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

野田 泰三 (NODA TAIZO)  
京都光華女子大学・人文学部・教授  
研究者番号：90335183

### (2) 研究分担者

高橋 敏子 (TAKAHASHI TOSHIKO)  
東京大学・史料編纂所・准教授  
研究者番号：80151520

### (3) 連携研究者

藤井 讓治 (FUJII JOJI)  
京都大学名誉教授  
研究者番号：40093306  
保立 道久 (HOTATE MICHIHISA)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号：70092327  
久留島 典子 (KURUSHIMA NORIKO)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号：70143534  
三枝 暁子 (MIEDA AKIKO)  
立命館大学・文学部・准教授  
研究者番号：70411139  
金子 拓 (KANEKO HIRAKU)  
東京大学・史料編纂所・准教授  
研究者番号：10302655

### (4) 研究協力者

宇野 日出生 (UNO HIDEO)  
京都市歴史資料館・研究室歴史調査担当係長

志賀 節子 (SHIGA SETSUKO)  
関西大学・非常勤講師  
下村 信博 (SHIMOMURA NOBUHIRO)  
名古屋市秀吉清正記念館・調査研究員  
藤田 恒春 (FUJITA TSUNEHARU)  
京都橘大学・非常勤講師  
米田 裕之 (YONEDA HIROYUKI)  
賀茂別雷神社・職員